



私は西アフリカ・ニジェールの首都ニアメーにある職業技術校に、IT技術の教師として派遣された。だがそこには厳しい教育環境が待ち構えていた。というのも30人の生徒に対し、超旧式のパソコンがたった2



ニジェール
(2009～11年派遣)
三浦祐二さん(53)
廿日市市出身

IT実習に厳しい環境

企業を回って寄付を募った。結果、多くの個人や法人から通信機器やパソコンを無償提供してもらえた。やっと実習ができると思

ったら、今度は長時間の停電。電源がなければ教材は「ただの箱」である。そこで次に小規模な発電所の建設を目標にした。ニジェール

は終了となった。帰国後は益田市匹見町でワサビ栽培を始めた。IT技術者から農家へと転身したのは「技術者」として生涯現役を貫きたかったか

は毎日快晴のら。屋号は「オーベルジュわさび」。栽培に加え加工品を製造、土民家での飲食、宿泊などのサービスも提供する6次産業化を試みた。さらに国内外の観光客を集めて、ワサビの収穫体験などの催しも始めた。

近年目標にしているのは、過疎地域で産業を復活させること。しかし事業が軌道に乗り始めた時期に古民家を借り続けることができなくなった。こちらもニジェールと同様、志半ばで活動が終了したのだ。それでも諦めず現在は、観光客の多い廿日市市吉和で「オーベルジュわさび」を復活させるべく、準備中だ。



日本企業のヤマハから提供を受けた通信機器を手にする職業技術校の生徒たち。
前列右端が筆者